

令和4年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
サービス種類	地域密着型サービス		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「利用者の個別性介護を大切に」を目標に運営してきました。個別の生活習慣を守るようにし日常生活においても、就寝・起床時間などの規則はありません。食事作りでは苑内で野菜を利用者と育て収穫した野菜を調理してもらっています。日々職員は利用者の思いに寄り添い、傾聴する事で信頼関係を築いています。また、各利用者のニーズに応じた個別支援を行っています。認知症についても外部研修を含め施設内でも勉強会を適宜行っています。

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2771300346-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2771300346-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和4年10月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人が運営しているグループホームです。近くに同法人運営の老人保健施設があり、常に連携した運営を進めています。4つの介護理念を基本に「よりそう介護」を実践しています。ホーム内は清掃が行き届き、清潔で広々としたリビングに置かれた大きなテーブルを囲んで利用者は寛いでいます。3食手作りの食事も喜ばれています。日中、玄関やエレベーターは開放し「利用者の行動を制限しない」という開設時からの考えは職員に引き継がれています。母体からの医療面での支援も充実しており、利用者・家族の安心と信頼を高めています。「ここに戻ってきたい」との利用者・家族の思いに応え、積極的な看取りケアに取り組むことになりました。日頃の関わりを認め、最期にホームを選んでもらえることは、職員の士気を高めよりよいケアに繋がっています。「わがママを言えることができる環境を提供します」を介護理念のひとつに掲げた自由な暮らしがあり、絶え間なく利用者職員の話し声や笑い声が溢れるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和4年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
サービス種類	地域密着型サービス		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「利用者の個性化を大切に」を目標に運営してきました。個別の生活習慣を守るようにし日常生活においても、就寝・起床時間などの規則はありません。食事作りでは苑内で野菜を利用者と育て収穫した野菜を調理してもらっています。日々職員は利用者の思いに寄り添い、傾聴する事で信頼関係を築いています。また、各利用者のニーズに応じた個別支援を行っています。認知症についても外部研修を含め施設内でも勉強会を適宜行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人が運営しているグループホームです。近くに同法人運営の老人保健施設があり、常に連携した運営を進めています。4つの介護理念を基本に「よりそう介護」を実践しています。ホーム内は清掃が行き届き、清潔で広々としたリビングに置かれた大きなテーブルを囲んで利用者は寛いでいます。3食手作りの食事喜ばれています。日中、玄関やエレベーターは開放し「利用者の行動を制限しない」という開設時からの考えは職員に引き継がれています。母体からの医療面での支援も充実しており、利用者・家族の安心と信頼を高めています。「ここに戻ってきたい」との利用者・家族の思いに応え、積極的な看取りケアに取り組むことになりました。日頃の関わりを認め、最期にホームを選んでもらえることは、職員の士気を高めよりよいケアに繋がっています。「わがままを言うことができる環境を提供します」を介護理念のひとつに掲げた自由な暮らしがあり、絶え間なく利用者と職員の話し声や笑い声が溢れるグループホームです。

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2771300346-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2771300346-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和4年10月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすことができるよう4つの介護理念を確立している。 職員が行ったサービスで理念の何に当たるかカンファレンスや機会があれば話し合いをしている。	「私たちは、1. 今までの生活リズムを守ることができる環境を提供する。 2. まだ人のために役立っていると思うことができる環境を提供する。 3. わがままを言えることができる環境を提供する。 4. その人らしく生きることができる環境を提供する。」の介護理念を掲げ、毎日の支援にあたっています。また、「寄り添うケア」を大切にしています。自由な起床時刻などの個別ケアの実践により、利用者の「自由な暮らし」が継続しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為外出できず。	地域社会とつながりながら、利用者一人ひとりがその人らしく生き、継続した暮らしができるよう、積極的に地域と交流していましたが、コロナ禍のため、現在は地域の行事はほぼ中止になっています。現在は、法人で地域の清掃を行ったり、実習生を受け入れる等、出来ることを工夫して交流に取り組んでいます。認知症カフェも再開の予定です。認知症カフェには職員も積極的に参加することでケアのスキルアップに繋がると、管理者は期待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して認知症を持つ家族参加の相談支援を行う場を設け、認知症の理解を働きかけたり、グループホームについて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議開催できず文面にて報告。	運営推進会議は、利用者、家族、市職員、民生委員、地域包括支援センター職員の参加で開催していましたが、現在はコロナ禍のため書面での報告となっています。報告内容は、ユニット毎の取り組みを含めて詳細な内容です。家族全員に報告を送っています。	報告に対する意見や要望を聞くために返信用封筒を同封するなどの工夫はいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の要望に応えられるよう、得異なる入居依頼があったときなどは積極的に対応し市町村担当者に連絡しサービスの向上につとめている。また、常に困った事例等あれば速やかに連絡相談している。	市の高齢介護室担当者とは、解らないことや困ったことがあれば、その都度相談できる関係を築いています。市の事業者連絡会グループホーム部会はコロナ禍のため開催は中止の状況ですが、訪問等で情報交換に努めています。再開予定の認知症カフェの取り組みも、市と連携しながら進めていく考えです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員が人的環境を整え緩和するよう努力している。身体拘束委員会を設ける。年3回委員会開催年4回勉強会実施	日中、玄関やエレベーターは開放し、設立時からの「利用者の行動を制しない」という精神は、職員に引き継がれています。利用者が外出しそうな様子を察知したら、職員と一緒に外出するなど、自由な暮らしを支援しています。身体拘束委員会による身体拘束廃止・虐待防止に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。また、法人のハラスメント委員会によるポスターを掲示し、利用者にもストレスを感じさせないケアについて考えるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での介護行為に対して、定期的に検証し、カンファレンスで話し合っている。法人内の人権擁護研修会に参加・年3回委員会開催年4回勉強会実施		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体をもって対応可能。研修参加も行っている。家族からの相談があれば速やかに進めていく体制は整っている。現在1名の方成年後見人制度対象者の方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に、本人・家族に施設見学してもらい、サービスの内容・料金の説明をしたり疑問や不安などがあれば話し合いを行い、納得してから契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内には意見箱を設置し、無記名で投稿出来る様になっている。苦情を受けた時すぐに対応できるように苦情受付書類を準備している。問題点を明らかにしカンファレンス、申し送りで周知している。又、市町村にも報告を怠らないようにしている。	コロナウイルス感染対策として、窓越しの面会を余儀なくされていますが、家族にひと目で安心してもらえるように、利用者の身だしなみを整えておくことをコロナ禍の中で学びました。定期的に発行しているホーム便り「ガーデン四季」には、利用者の日常の暮らしぶりがよりわかる写真を掲載するように心がけ、個々の担当職員が手紙をつけて送るなど、利用者・家族に安心してもらえるよう工夫し、家族に大変喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員出勤の勤務を組み、その時に業務・介護ケアカンファレンスを実施している。その場では、職員が自由に発言できる環境作り、決まった事は全員で実行するようにしている。	月に1回の職員全員が出席するカンファレンスでは利用者一人ひとりの情報共有はもちろん、研修・業務についても意見交換をしています。欠席する職員は、事前に意見を伝えています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。管理者は、「利用者・職員共に居心地のよい環境づくり」を心がけ、職員の声を尊重しながら、積極的に業務改善を行っています 法人のハラスメント委員会による職場環境の改善取り組みにも積極的に、職員が意見を言いやすい工夫がされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護処遇改善に取り組み、給料水準の向上 介護用具を購入し、職場環境を整え各自が向上心をもって働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・法人外のZoomによる研修に参加してもらっている。研修後に、報告書を出してもらっている。月1回のカンファレンスでは、書記を順番に回るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム・老健・支援事業所と定期的に会合の機械を持ち、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の程度によるが、施設見学、または当ホームからサービス利用先へ出向などして、本人とゆっくり面談するようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは見学に来た際や、相談を受けた時に困ったり、悩んだりしていることを受け止められる様に拝聴している。私たちが援助できることを具体敵に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話聞き、必要に応じて情報を提供している。対応出来ない時は、それぞれの専門職に協力を依頼し、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、料理をしたり、共にするという意識している。職員は疑似家族家族として、入居者に尊敬の念をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時、一緒に歌を唄ったり雑談をしながら入居者との時間を楽しく過ごせるように支援している。又近況を話しながら今後の方向性を話している(今年度はコロナ禍の為実施できず)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は知人・親戚・近所の方が面会に来た際は、お茶を出し、部屋でゆっくりと話などをし、過ごしてもらっていたが今年度はコロナ禍の為窓越しの面会実施	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で友人・知人の面会は制限していますが、ドライブに行った時は、馴染みの場所や知人の思い出話を聞き、利用者の生き生きとした表情を見ることが出来ます。リビングに設置している公衆電話から、家族や知人に電話をかける利用者もいます。「まだ人のために役立っていると思うことができる環境を提供する。」を理念のひとつに掲げ、昔取った杵柄で家事能力を発揮する利用者もいます。洗濯もの干しの際「えもんかけ」と懐かしい言葉を聞き、利用者・職員で和みました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度・性格・生活過程などを考慮しスムーズに関わることができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関などに入院しても家人と面会をし、方向性を話し合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や話題の中で本人のニーズを見つけだすようにしている。又、家族との会話も大切にしている。得た情報を職員間で共有、ケアプランに反映している。	「寄り添うケア」に努め、職員は利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、気づいた事や新しい発見は、記録に残し、職員間で共有しています。毎月の会議では、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、各職員の気づきを出し合い、検討課題の解決策を話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、サービス事業所から得た情報を考慮し、ケアプランを作成している。24時間の生活パターンを大切に介護サービスを提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護スタッフは入居者の日々状態を観察。その中で、気づきや状態の変化を主治医、看護師、ケアマネを中心に情報収集し、観察項目を決定、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護実施表を作成し、ADLなどを観察し、職員で共有している。日々観察、変更が可能な独自の介護サービス表を作ってケアに反映させている。	入居時には、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、3ヶ月毎の更新を基本とした介護計画を作成しています。また毎月モニタリングを実施し、カンファレンスでは介護計画をもとにそれぞれ意見を出し合っています。計画作成担当者は、「本人を親てきた家族の意向と、本人のできる事を尊重しながら作る介護計画」を心がけています。厚生労働省が推進しているLIFE(科学的介護情報システム)を導入し、根拠に基づいた質の高いサービス提供を目指しています。また、管理者は加算に見合ったケアの質を意識し、高める必要性を感じています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人介護サービス表」「アセスメント」「介護記録」「個人ファイル」を使用し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の場合、原則は家族に行ってもらうのが基本だが、キーパンソンが海外出張や闘病中などの場合は、看護師、施設職員が同行し、援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が入居者の地元であるため、親戚・知人、友人等が頻りに面会に来ている。毎年地域の小学校の交流イベントへ参加したり、関連施設の利用者との交流を行っていたが今年度はコロナ禍の為交流できず。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には1回/3~4w外来主治医に、情報を提供し受診している。それ以外にも状態の変化があれば主治医に相談、往診、診察を受けている。専門的な治療が必要な時は、家族に連絡、希望の病院を聞き、対応している。	連携医師による訪問診療は月1回ですが、本人や家族の希望があれば入居前のかかりつけ医の受診は可能です。夜間緊急連絡表を作成し対応方法を共有しています。連携医師は24時間対応、看護師も常勤配置し安心です。利用者の健康状態については電子カルテで利用者の情報を一元化し、管理者・看護師が必要に応じて家族に連絡します。酸素療法が必要な利用者には、医師の指導の下、酸素濃縮装置を居室に設置、看護師が看護に当たります。看護師は「(入院しても)またここに帰りたいたい」と言う利用者の言葉に人生の重みを感じながら支援に努めています。職員は様々な病気に対する勉強会を経て支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、その都度相談し利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時、入院先的主治医の所見、家族の意向等を確認し、退院後の方向性を決めている。また、医療機関と情報を交換したり、訪問したりその後の相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・外来主治医・看護師・ケアマネ・介護職員と、定期的に話し合い、将来的なことを含め方向性を出している。毎日の申し送りや月1回のカンファレンスなど全員に周知している。希望があれば、看取りの対応も実施している。今後は、終末期のあり方について、家族・本人の望む事に向き合えるよう職員教育を行う必要がある。	「急変、重度化に関する指針」に沿って利用者や家族に説明し看取りケアをしています。状況の変化に伴い利用者・家族と話し合いを重ねています。救急要請時に於ける対応マニュアルを作成し、バイタル他利用者毎の情報の一覧表を作成、看取りケアに繋がっています。管理者は「利用者の人生、家族の意向を大切に」を思い看取りをしています。看取りを経験した職員は、これからも利用者や家族に寄り添った支援をしていきたいと話します。看取り介護を受けた利用者の家族より感謝の手紙が寄せられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、いつでも対応できるように提示している。緊急時は法人内医師や看護師に相談できる仕組みがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の施設課の下、定期的に避難訓練を年2回とコスモスガーデン独自の災害訓練も適時実施している。連絡網を作成し、警察・消防署などの連携を図りながら、利用者の安全を確保できるように努めている。	夜間を想定した年2回の避難訓練のうち、1回は消防署立会いの下で行っています。訓練実施報告書で訓練後の総括をしています。災害対策マニュアルを作成、夜間・休日の対応、連絡先、連絡手順等整備していますが、より良いマニュアルを作成すべく現在検討中です。備蓄品、保存食の保管、一覧表も作成しています。防災研修会も実施しています。	個数や枚数、消費期限を記入した「備蓄品一覧表」を作成し、保管場所に掲示して管理しやすいようにされていますか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴える事の出来ない入居者にも可能な限りトイレで排泄してもらえるようにトイレ誘導を行っている。失禁が多い方も行動などを分析し、排泄パターンを分析しカンファレンス、申し送りで周知している。見守りが必要な方には、自尊心に配慮し、サポートを行っている。	個人のプライバシーや人格を尊重するケアに努めています。2か月に一回研修会を実施、職員間で共有しています。不適切な言動が生じた場合、職員間で共有し、全員で考えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護理念に揚げ実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念に揚げ、入居者の24時間に職員が合わせ介護サービスを提供するように周知している。職員の都合や時間で介護しない用に指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望を聞き実施している。時には、家族に美容院などに連れてって下さるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、後片付け、洗濯たたみなど職員と入居者が一緒にする事を心がけている。食事の際も入居者の間に入り楽しい雰囲気です。食事ができるような話題を提供している。食事介助が必要な入居者もいるので、さりげなくサポートするようにしている。	調理専従の職員を1名配置、菜園で収穫した野菜も食材として取り入れ、3食ともホームで調理します。利用者はオープンキッチンでの調理の様子を音や香りと共に楽しんだり、出来ることを手伝ったりします。コロナ禍で食事は一緒にとれませんが職員は利用者寄り添い、さりげなくサポートしています。行事食も楽しみの一つです。利用者の好みのおやつと一緒に作ることで喜びに繋がったりもしています。食欲不振の利用者には無理強いせず会話をしながら促すよう支援しています。外食の楽しみが制限されるなか、以前行っていた「キッチンカー」の導入を検討しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	木島病院の管理栄養士から、必要に応じて相談、指導を受けるような体制をとっている。水分に関しても入居者の好みの飲み物を何時でも飲めるように冷蔵庫にはジュース、牛乳など常備敷いている。むせ込みが多い入居者には、ゼリー状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。自身で出来ない方には、個別の口腔ケアを実施している。毎週1回歯科の往診あり、家族・本人の希望があれば、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴える事の出来ない入居者にも可能な限りトイレで排泄してもらえるようにトイレ誘導を行っている。失禁が多い方も行動などを分析し、排泄パターンを分析しカンファレンス、申し送り周知している。見守りが必要な方には、自尊心に配慮し、サポートを行っている。	排泄アセスメントを行い、排泄パターンを把握してさりげなくトイレまでの移動支援をしています。法人の排泄委員会(月一回)のアドバイスにより改善されたパットを導入しています。夜間も睡眠の妨げにならないように配慮しながらトイレ誘導をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難な利用者には主治医と相談し、本人に合った下剤でコントロールをしている。状況に応じ、看護師に報告し、調整も行っている。運動や水分、食べ物も入居者の嗜好に合わせて排便しやすいように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番など可能な限り平等に入浴をして頂く。入浴が嫌いな入居者や、便失敗した入居者に関しては、時間に関係なくその時の状況に合わせて入浴してしてもらっている。	入浴は週2回ですが希望があれば随時入浴することができます。入浴ができないときは清拭や足浴で支援をします。好みの石鹸やシャンプーを持ち込んだり、音楽好きの利用者は脱衣室でCDを流しながら入ります。菖蒲湯やゆず湯では季節を楽しみます。浴室は一般家庭と同様の作りで浴槽は足を伸ばしても入れる大きさです。滑り止めマットを敷き安心して入浴することができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間はきめていない。一人ひとりの生活パターンに合わせて支援している。日中も入居者の体力的なものも考慮し状態に合わせて休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察で処方された内容について、確認出来る様に保管している。又変更時は、特記事項として伝達している。作用、副作用について説明してケア出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや料理参加など家事活動に参加してもらえるように心掛けている。習字や塗り絵が得意な入所者には作品を提示板に飾り皆に見えもらえる様にしている。気分転換に外へドライブに行ったり歌を歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日などは、庭でお茶会をしたり、法人内を散歩したりしている。帰宅要求から外に飛び出す入居者もいるが制止するのではなく付き添い見守り、状態を見て声掛け、一緒に帰るようにしている。水曜日は近隣にドライブに出掛ける。	コロナ禍ですが週1回は外出します。敷地内の菜園で外気浴を兼ねて、茄子や胡瓜の収穫を楽しみます。座る生活が多くなり下肢筋力の低下が懸念される中、声掛けをして歩行訓練を実施しています。理学療法士によるマッサージも行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持つことで安心する入所者には、家族に許可を得て本人に所持して頂けるようにしている。また、希望者は施設で預かり金を置いている為、買い物したい時に買うことができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時は、公衆電話からいつでもかけられるように支援している。又、手紙や年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごされいると、食事の匂いや、食器を洗う音などの生活音が聞こえる。居間のテーブルやトイレなどに季節の花を飾り季節感を感じてもらう様にしている	玄関へ通じるアプローチの横には、綺麗に整備された庭があり、椅子に座り木々や花の中で語らうことができます。陽射しが差し込む広いフロアには楕円形の大きなテーブルを用意し季節の花を飾っています。ゆっくり座れるソファや畳コーナーもあり、手足を伸ばす利用者もいます。壁に掲示した利用者の作品や職員手作りの飾り物は和やかな雰囲気高め、居間からのぞめるオープンキッチンは日々の暮らしを醸し出しています。柔らかく落ち着いた照明の下、温度湿度も季節ごとに管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と居間の間には観葉植物を置き落ち着けるようにしている。また、自由に休んだり気の合った入居者同士でおしゃべりしたり、思い思いに過ごせるよう、ソファを置いている。また、畳コーナーも設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学の時や入居契約時本人の馴染みの家具や使い慣れた品物などを持ってきてもらえるようお願いしている。	入り口にはマスコットつきのネームプレートが掲げられ、家族手作りの暖簾を掛けています。洗面台、エアコン、ベッド、机、クローゼットはホームが用意、馴染みの物や好みの物、中には仏壇、布団を持ち込む利用者もいます。入居の際には感染対策の上、家族と一緒に居室づくりをします。個人の嗜好に合わせて、ぬり絵コーナーを設けるなどの工夫を凝らし、利用者がゆっくり安心して暮らすことができるように支援しています。窓からは季節の移ろいを見ることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできる事は、時間がかかっても待つことは大切にしている。又、普段はできるがその時の状態でできない時もあるので、その時には、プライドを傷つけないようにお手伝いしている。入居者が自然な形で家事手伝い等に参加できるような環境作りを心掛けている。		